



あの目からの車いす

定藤丈弘を支え続けた思い



〈サロン・あへの〉 3月の出会い

976年12月のこと。先生の

朝からあいにくの雨模様となつた平成15年3月15日(土)午後1時〜4時、育徳コミュニケーションセン

乗った車とタクシーの衝突事故で、先生は頸椎損傷を負い、上下肢まひの車いす生活を強いられることになる。当時先生は33歳。邦子さんはまだ学生で、先生が

ター2階の研修室で、〈サロン・あへの〉3月の出会いが開催されました。サロンに不定期に会いを持ってくださったいた故定藤丈弘先生(大阪府立大学社会福祉学部教授)の奥様、定藤邦子さん(写真)をお迎えし、「あの日からの車いす」ー定藤丈弘を支え続けた思いーというタイトルでお話をお伺いしました。

事故に遭われたと聞き、友人との3人でお見舞いに出かけられた。事故のショックで、障害の受容など、まだできていない時期だったので、今まで学校で見ていたかっこいい先生とは全く違った姿を見ることになり、友人3人共々落ち込んで帰途について。それでも、次に会った時には、もう明るい先生に戻っておられ、その強い精神力に驚かされた。「もし先生が事故に遭われなければ、ただの先生と生徒の関係で終わっていました。皮肉なようですが、事故にあつたおかげで一緒になれたし、20年間充実した生活が送れたと感謝しています。」

ー受傷・復職・結婚ー

先生が事故に遭われたのは1

ます。」

後ろを振り向かず、それなりに可能性のある方向に目を向け、復職を大きな目標にリハビリが

続いた。今から25年ほど前の話になるので、重度の障害を負った人が社会復帰を果たすことは

今以上に困難だった。職場が社会福祉関連の大学だったことは

とてもラッキーなことだったが、なによりも本人の強い意志が復

職へのさまざまな壁をひとつひとつ壊していった。

「とにかく、性格が「しつこい」んです。あきらめが悪いというのか……。でも、くじけることなく、常に明るく前向きな姿には、

どんどん惹かれていきました。」

結局、先生は受傷後10か月という異例の早さで職場復帰を成し遂げた。当初は病院から大学に通い始めた」と記憶している。

やがて、先生の介護は他の人には任せたくない、という思いも芽生えてきた。反対していた

両親も、先生に会い、その人柄を尊敬してくれ、78年10月、結婚式を挙げた。

「アメリカへの留学」

87年、先生はサンフランシスコ郊外にあるカリフォルニア州

立大学パークレー校に留学した。アメリカの自立生活運動を研究

するためだった。自立生活思想というの「人の手を借りてで

も、自己決定のできる障害者は自立している」というもの。人の

手を借りずに、自分の服を着替えることに1時間の時間を費やすよりも、人の手を借りて15分

で着替えを済ませ、残りの45分を自己実現の時間に充てる。日

本ではまだまだ浸透していない思想だった。パークレーという

街では、障害者に社会参加の機会がハード面でもソフト面でも

至る所に用意されていた。そこ

で出会った障害者は、運動しながら研究もする、という日本ではあまり見られないスタイルの研究者が多かった。先生もかなり影響を受けたようだった。自

己決定と自己管理の大切さを身をもって体験した留学だった。

帰国後、留学中のアメリカで制定が進められていた「障害を持つアメリカ人法（ADAA法）」

の草案を日本に紹介したり、運動にも積極的に関わりを持つようになつていった。

「自分がもし夫よりも先に死んだら、夫は生活できないだろう

と思っていました。留学後は「大丈夫だ」と思うようになりま

した。それほど留学前と留学後で夫の意識は変わったのです。

その分、私に対する気遣いも薄れたような気もして、もう

ちよつと大切にしてくれてもいいのに、と思うこともありまし

たが……。」

電動車いすに乗るようになり、地下鉄にエレベーターがついてからは、先生は一人で外出されることもたびたびあった。

「忙しくて時間がない、と言いな

ながらも、梅田まで行って、本屋

さんや行きつけのお寿司屋さん

に寄り、帰ってくるんです。車い

すの後ろにおみやげをくくりつけて……。うれしかったです。夫

にとつても、いい息抜きだったのでしよう。一人で出かけると、

いろんな人の親切・優しさに触れ、それもうれしかったようです。」

「夫への思い」

亡くなる前のころは「社会福祉基礎構造改革」のことをかなり気にかけていた。措置制度が

利用制度へと移行することにより、自己責任ばかりが強調され、

本当に必要な人へのサービスが

後退するのではないか。今、やはりそのような状況が起きてきており、先生の危惧は少なからず当たったようだ。

「研究活動、大学の仕事、学生への教育、当事者としての運動。夫はいろんなことに本当に真面目に一生懸命に取り組んでいました。もう少しゆっくりしていたら、もっと長生きできたのかな、と思うこともあります。でも、それができない人だったし、それで後悔はしていないと思うんですが、私としては、もうちよつとええかげんに済ませてよかったんじゃないかなあ、とも思いますが。」

お茶とお菓子をいただき10分間ほどの休憩の後、参加者からの質問や定藤先生との思い出話などに花が咲きました。

邦子さんのお話の中には、ご自

身の苦労話はほとんど含まれていませんでした。「ご夫婦間で、障害はどのように意識されていたか」という質問には「介護は体力的にはしんどいときもありましたが、あまりにも日常化していたので、特に意識することはなかったかも」というお答え。障害を

持つていてもいなくても、好きな人もいれば嫌いな人もいる。障害があることが、好き嫌いや結婚を妨げる理由にはならなかった、と力強く。「結婚前にはもっと包容力があ

ると思っていたのに、意外無口で会話が弾まなかった」など、結婚後に誰もが経験するご夫婦の様子も語ってくださいました。邦子

さんのストレス解消法は、とにかく胸の内にためずに、何でも

## 2003 魅惑のシャンソン

日時=5月25日(日)  
開場14時30分 開演15時  
会場=森ノ宮ピロティホール  
出演=奥田真祐美

松岡智子  
近藤はるみ  
川口洋子

シャンソン評論家 永田文夫

演奏=西川真グループ

曲目=・愛の賛歌  
・恋心  
・サン・トワ・マミー  
・さとうきび畑 他

入場料=前売¥4500  
当日¥5000 (全自由席)

お問い合わせ先=  
TEL・FAX 06-6692-8774  
(奥田真祐美音楽事務所)

思ったことを言うこと。そのときは何んかになっても、そこは夫婦。わだかまりを持つことはなかったそうです。先生は、とにかくほめ上手な人でした。先生にほめられてその気になったり、自信を持ったり。この会場にもそんな人が何人もいました。邦子さん曰く「夫は、お世辞でそう言ったんじゃないくて、本当に心の底からそう思ってたんです」。人を育てることが上手な先生でした。いろいろな場所で、先生に育ててもらった人たちが大きな花を咲かせ、実を結んでいくことだろうと思いました。

学問的に大きな功績を残した先生でしたが、今日ここで、甘いものが好きだったり、「邦ちゃん」と呼んでいた等身大のやさしい先生の思い出を皆さんと一緒に語り、こんな偲び方ができ

てとてもうれしかった、と話さ

れた卒業生もいました。邦子さんも「夫の事を話す機会を持たせてもらいとてもうれしかった」と結んでくださいました。

天国から、先生の笑顔がこぼ

れてきそうなあたたかい出会いとなりました。

邦子さんは現在、立命館大学の社会人向けの大学院で、「障

害者の生活支援とNPOの役割」について論文を書かれています。先生とともに歩いた20年間を土台として、新たなスタートをきられた邦子さんの

参加者20名、司会は原田博子

(まとめも原田)

## 定藤先生の思い出 茅原聖治

定藤先生と私が初めて出会ったのは、1988年、私が大阪府

大の経済学部の1回生のとき、夏の暑い中開講された一般教養の集中講義「障害者問題論Ⅰ」においてでした。先生が車いすです現れたときの衝撃は今も忘れられないインパクトがありました。

汗をかきながら車いすで講義をされている先生は、当時大学には入ったものはいまいち将来の目的と目標を持ちかねていた、重度障害を持ち車いすの私にとつては、まさに憧れの人となった瞬間だったと記憶しています。そして、そのお姿は私に共感を与えるとともに将来に向けてのビジョンのようなものを与えてくれたと思います。

研究者となり教師となろうというその後の私の進路はまさに定藤先生のお姿がお手本だったように感じています。その後もときどきお話を聞いていただいています。1997年に私

は経済の大学院を修了し、亡くなられるまでの約2年の間、定藤先生に直接教授いただく機会をいただきました。

定藤先生の冗談好きの快活なお人柄に間近で接することができた貴重な時間でしたが、同時に障害者問題に関する研究に対する姿勢は真剣そのもので、研究者の仕事の厳しさのようなものを教えていただけたように思います。私にとって定藤先生は

障害者の先輩としても教師・研究者の先輩としても、先生の後ろ姿を追いかけてきたといっても過言ではないように感じます。

姿にエールを送りたいと思います。

2度ほどゼミ旅行に連れて

行つていただきましたが、私が最も印象深く覚えているのは、定藤先生を本当にきめ細やかに

お世話しておられた奥様の邦子さんのお姿と、白浜アドベンチャーワールドのパンダ舎の前で、座り込んで何か食べていたパンダに手を振りながらそのパンダの名前を大声で呼びかけていた定藤先生のお姿です。

1999年1月先生が急逝されてからも思い出されるのは陽気な先生のお姿ばかりです。もっともっと私たちを笑わせてほしかったなとまだまだ思います。

定藤先生の  
姿を勇氣に  
原田 仁

実は、私は「定藤記念福祉研究会」という会のメンバーで、1〜2か月に1回ぐらい定藤先生のお宅に集まり、アコーディオンカーテンの向こうから先生が「やあ」と出てこられそうなお部屋で議論などをしてしているので、こんな表現はちよつとしらじらしい気もするのですが、福祉というものが大きく変わっているなかで、先生がおられたらどのように考えられるのだろう、とつくづく思うのです。

これは以前からあり、定藤先生もいろいろ研究や実践をされていたテーマなのですが、社会福祉法という法律に定められたため、多くの市町村が今、この計画をつくりはじめています。

地域福祉というのは、だれもが生活の場である地域のなかで、自分が希望する生活ができるよう支援することです。そのためには、いろいろな制度や公的なサービスが必要ですが、地域自体が、つまり地域で暮らす一人ひとりが、自分自身も含めてすべての人がしあわせに暮らせるまちづくりを願ひ、それぞれができることをしていかなければ、いつまでたつても実現できません。それをすすめていくために、みんなで夢を描き、住民は、行政は、福祉の仕事や活動をしている人たちは、それぞれ何をやるのかをいっしょに考えるのが地域福祉計画というわけです。

でも、最近の福祉の動きは、例えば、介護保険になって特別養護老人ホームの順番を待つている人が増えたり、この年末から年始にかけての障害者の地域生活支援に関する国の動きなどをみても「ほんまに地域福祉をすすめる気があるんかいな」と思つてしまいます。地域福祉計画づくりのようすをみても、行政の人は何となく「地域福祉は住民がするものですよ」みたいなに突き放している雰囲気があるし、その住民の方も重度の障害者が地域で生活しようとしているというところにはあまり気づいていない。そもそも、そんな話し合いに参加している障害者が少ない（あべの「地域の福祉環境を考える会」は別ですが）。

定藤先生がおられたら、きつと先頭にたつて「そうやない」と引っぱつていただきたらうな、とその姿が目につかびます。それを勇氣にやつていかなあかん、と思う今日この頃です。



（サロン・あべの）1991年10月の出会いで「社会福祉のクオリティ オフ ライフ」について話をされる定藤丈弘先生

## 誰でも参加できる場所へ

### 第11回

兵庫県芦屋市の南芦屋浜アートワーク活動  
 における県営・市営ナチュラルコモン  
 (兵庫県芦屋市)

林 典生

仮設住宅から転居されており、芦屋市で一番高齢化率が進行してきた南芦屋浜の住民がアートワークを行う中で新しい地域の連帯感が完成するように目指しています。

最近の記録を読んでもみると、1998年4月以来、ミーティングや、5月以降の土起し、たい肥の散布、水やり、苗の買い出し等とかなり苦労している中で楽農活動を営む上での本場に様々な作業が、住民同士で協力して行われており、1999年7月に楽農活動が団地の自治会内部の一組織(園芸部など)として正式に承認され、それ以降緩やかな活動が持続されています。

2000年8月で参加しているメンバーは県営市営合わせて30人前後。楽農活動に参加資格のようなものはありません。また活動形態も「皆で話し合って決定する」といった、とても基本的な約束事があるだけで、非常に緩やかな活動形態がとられています。

今、楽農倶楽部は二つのだんだん畑ごとに、市営の楽農倶楽部「だんだん畑園芸クラブにここ」と県営の楽農倶楽部「陽光農園クラブ」に分かれて運営されています。

実際にくわ入れのお祭りをしたのは5月中旬でしたが、去年の10月からボランティア団体が主催するナチュラルコモンのワークショップを行っており、そのことについてレンゲ通信という機関誌を発行しています。

今までは、地域住民が声を上げて行ってきたコミュニティガーデン活動について紹介してきましたが、今回は行政機関が社会計画として行っているコミュニティガーデン活動として兵庫県芦屋市の南芦屋浜アートワーク活動における県営・市営ナチュラルコモンを紹介します。

これはマサチューセッツ工科大学の田浦律子先生によって南芦屋浜団地に段々畑のイメージでデザインした二つのコミュニティガーデンです。

この活動自体は最初から完成したものでなく、阪神・淡路大震災の被災民の方々が

1998年の5月17日にくわ入れ式を行って、二つのコミュニティガーデンは南芦屋浜の住民から組織している運営委員会が結成されて、運営されています。一つは兵庫県営であり、もう一つは芦屋市営です。

その当時はこのアートワーク活動は雑誌の記事になっていて注目をあびていてし、収穫祭が成功したものの、実際起きている問題として日常的な活動を行う人が特定の人に固定していることが起きているので、活動の参加者を幅広く呼びかける必要がありました。

また、管理を同好会の活動から自治会の活動にしようとする、活動メンバーの人

知人のHさんは毎週月曜日の夜、私のお世話をするためにきて下さる。彼女はまた某新聞社のお仕事をされたり、友人の花屋さんのお手伝いもされている。

Hさんは毎週月曜日の午前5時頃に友人と車で近くの花市場までいろいろな花を仕入れに行かれる。そして仕入れた花の中から数本を選んで夜、わが家まで持ってきて下さるのである。

ちょうど「大寒」の1月20日に菜の花を持ってきて下さったので私はびっくりした。

なぜならば菜の花は春の花で、4月頃にしかならないと思っていたからである。でもHさんに「菜の花の別名を寒咲花というので、寒の内に咲くのですよ」と聞いて私は納得した。

2月のはじめ、Hさんは「山帰来<sup>さんきらい</sup>」とい

う珍しい花を持ってきて下さった。白い小花をつけた「山帰来」を眺めていると、私はなぜか全国を漂泊する僧が行く先々で、法話をしている姿を想像していた。この花

は蔓性低木で、中国やインドに自生している。

この他にもカーネーション、マーガレット、かすみ草、ガーベラ、アルストロメリア、ヒヤシンスなど、数え切れない程たくさんの花を持ってきて下さっている。たとえ1輪の花でも殺風景な部屋を華やいだ雰囲気<sup>はな</sup>に変え、人の心もな

ごませてくれる。

これからはだんだん暖かくなり、花の美しい季節を迎える。それだけにHさんが毎週、どんな花を持ってきて下さるのか、大いに楽しみである。

## 晴れのち晴れ 55

花の定期便

稲垣 恵雄



サロンの

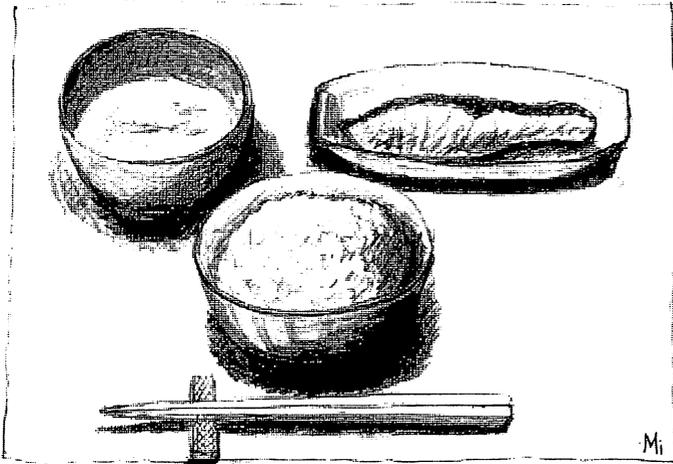
絵はがき

5枚1組 ¥180

＜サロン・あべの＞の活動資金調達にご協力をお願いします。

# 不平という贅沢

宮崎俊輔『北朝鮮大脱出：地獄からの生還』（新潮社）という本がある。文庫本で小さな本だが、ところどころしか読む気にならない。内容があまりに辛く、気が重く



なって本を閉じてしまうのである。日本で生れた著者が少年時に北朝鮮に渡り、いかに悲惨な人生を歩んできたかが書かれてある。

しかし、このような人生は地上において稀なものではないだろう。飢饉は現代でも世界各地で起きている。しかも、その地で差別されている人々は筆舌に尽し難い過酷な運命をたどっているのだろうと思う。

このような人たちの歩みを知ると、自分が日常生活のなかで不満に思っていることなど考えてみるのもバカバカしいことに思えてくる。

たとえば、私は先日、英語のテストを受けた。四十をすぎて、まだテストなんか受けているのかと言われそうだが、海外で少し仕事をしようかと思っていることもあって自分の語学力を試してみたかった。ところが、英語の勉強にかなり時間もかけ、お金もかけたのにテストの点数が思ったより、ずつ

## 好評のエッセイ!

岡知史著

□知らされない愛について

□ほんの少しの神に近い部分

◎ どちらも 700円

☎ 06・6691・1028 本田まで

と悪かった。私はがっかりした。私には才能がないのかと思った。

これが私の悩みであろうか。悩みといえば、悩みではある。しかし、飢餓で命が消えそうになっている妻子を目の前にして「かならず送金するから」と約束し、その地を離れなければならなかった人と比べれば、こんなものは悩みでもなんでもない。

では、ほかに深刻な悩みがあるかといえ、これといってない。私は例外的に幸福なのだろうか。私はそうは思わない。私と同じ

### 第3回「エコ縁日」

あいにくの雨空の下、第3回目の「エコ縁日」が3月16日(日)午前11時～午後3時まで、大阪市阿倍野区桃ヶ池公園内にある青年センターで開催されました。子どもたちに昔遊びの伝承や木工細工、絵本の読み聞かせ、缶バッジ作り、野外では手作りパン焼きなど楽しい催し物が各場所を使い、時間差であちらこちらのコーナーで開催される中、自然環境やゴミ問題を考える会の展示などもありました。その中の1室で〈サロン・あべの〉はサロングッズ販売のコーナーを設け、来場者にサロン活動のチラシを配布したりしながら、いろいろな方々との出会いを楽しみました。サロンと同じ部屋に缶バッジ作りのコーナーがありました。デジタルカメラで写した顔写真を丸いバッジに作るのですが、その撮影の時の子どもたちの顔やしぐさにそれぞれの個性や年齢差などが出ていて、その可愛らしさは見飽きない姿でした。この子どもたちが健やかに成長し、穏やかな日々をおくれるようにと願うと共に、「エコ縁日」が目指している真意が地域の人達に広く伝わってくれるようにと思わずにはおられませんでした。(け)

### ……さきみみずさん

くらい小さな悩みしかもたない人は多くいる。人の様子を自分の慰みにするという卑しいと思う。それに、飢餓で苦しむ人々、拷問を受け、家族と生き別れになっている人々と比べれば、たいていの人々のたいていの悩みや不満は消えてしまうと思う。

ただ、こういう発想は「自分たちより悲惨な生活をしている人のことを考え、自分の生活に満足せよ」と言い、人々を抑圧してきた封建時代の支配者を連想させてしまうのか、避けられることもあった。より苦しんでいる。

しかし、自分が幸運であると思うことは、必ずしも不運な人々を蔑む気持ちにつながるとはかぎらないのではないか。むしろ、もつとも悲惨な生活を強いられている人のことを思い、自分の生活のなかの不満や不平を無くしていくことは、自分の生活だけに目を向けている姿勢を改めることにつながるのだと思う。(知)

不満を言ったり、ささいなことに悩んだりすることは、たいていの人にとっては悪い意味で贅沢なことなのだろう。命の危機にさらされている人々のことを、どこか遠くの別の世界の出来事だと思わず、自分と同じ痛みも感じるし、苦しいとも思う人間だと認めることができたなら、私たちは一歩、自分の殻のなかから出ることができるとも思う。

桃栗3年、  
柿8年、  
サロン・あべのは  
2000号

・・・ということ、みなさまから寄せられたいろいろなお話に添えて、サロン紙にまつわるあんな事、こんな話も、ごいっしょに。

### サロン紙の

### 読み方・活用法

中根 真

暖かい春の陽気も感じる今日この頃、お元気で過ごしていることと思います。いつも『サロン・あべの』紙をお送りいただき、誠にありがとうございます。また、2000号突破、本当におめでとうございます。

私と富田さんとの出会い、さらには『サロン・あべの』との出会いは、確か私が大学院生の頃でしたので、今から10年くらい前でしょうか。たまたま参加させてもらった大阪市杜協の講座か何かであったと記憶しています。それ以来、毎号欠かさず、お送りいただいているのですが、残念ながら、1度もサロンに足を運んだことがなく、富田さんとの再会も果たせずにおります。

さて、かくいう私も大学に勤務するようになって丸7年が経ちますが、この間、山口

県、広島県、兵庫県の大学を転々とし、自宅も4回引っ越しました。現在は天王寺区内に住んでいますので、近い将来、是非サロンに足を運んでみたいと思っています。ところで、毎号お届けいただく『サロン・あべの』紙ですが、私なりの読み方や活用法を少しばかり勇気を出して告白します。

まず、いつも真つ先に読ませていただくのは、岡知史さん執筆のエッセイです。短い文章ではありますが、その中に様々な気づきや発見があつて、ハッとさせられることが多々あります。例えば、昨年、仕事で少々スランプに陥っていた時に救われましたのは「飽きること」(2002年9月)です。思わず、そのコピーをシステム手帳や研究室のデスクなど、日頃目につくところに貼り、何度も繰り返し読ませていただきました(感謝)。執筆者の岡さんとは全く面識はありませんが、同業者でいらつしやるせい、か、共感できる部分が多いのかもしれない。今後もしも楽しみにしております。

また、このエッセイを読んでいるのは私だけではありません。仕事柄、若い学生さんの様々な相談にのることがありますが、内



## ●200号 あんな事、こんな話——かお

「40歳を過ぎれば自分の顔に責任を持つ」という言葉を聞いたのは遠い昔のことですが、「サロン・あべの」紙を発行して200号を越えました。これからはサロン紙もそれなりに責任を持てる「かお」になっているのでしょうか。発行年月としましては17年足らずですが、この号数を見ますと続けてこられた年月以上の重さを感じます。サロン活動にとりましてサロン紙はかけがえのないくサロン・あべの>の「かお」であってほしいと思いますし、サロン活動を知っていただくための名刺替わりに活用したり、障害者と健常者の交差点であることをどこかで認識していただけたらとも思ったりしています。市内、何カ所かにあるサロンでも会報を発行しているところがあります。それぞれの思いが込められた前回の活動報告と寄稿記事、それを表現している印字やレイアウトにも各サロンの特色が見受けられます。いずれも作り手(編集者)の顔は見えませんが、そのサロンが持つ温かさは感じ取れます。その時、読み手は何を思うのでしょうか。サロンの出会いにいつも参加して下さっている方ならば、これはあの人が書いたと思いますが、まったく参加しないで読んでくださっている方は、それをどんな思いで読んでくださっているのか気になるところです。サロン紙は障害者のための会報でも健常者宛の情報誌でもないのです。無色透明で読まれる方が思い描いてくださる「かお」がサロン紙の「かお」になるのだと思います。偏らない心で読んでいただくことがサロン紙にとって一番うれしいことです。(け)

容によつては、「これ(エッセイ)を読んでみて」と手渡し、読んでもらうことで、私がほとんど語らずとも、少し何かに気づいて帰っていく学生さんもいます。研究室のソファのそばに『サロン・あべの』紙の綴りを置いていきますので、学生さんから「先生、サロン・あべのつて、どんな所ですか?」という質問を時々受けますが、先の事情で戸惑うばかりです(苦笑)。

というわけで、何はともあれ、私もそろそ

る富田さんとの再会、そして、サロンを實際に訪ねてみる必要だということに改めて気づきました。どんな方々が『サロン・あべの』紙の編集をなさっているのか、毎月の「出会い」はどんな雰囲気なのかしら・・・などなど興味は尽きません。ふらつと立ち寄りました際には、どうぞよろしくお願いたします。

今春より京都は伏見の龍谷大学に勤務することになりました。ただ、土曜日は9月頃

まで毎週、播州赤穂の関西福祉大学で非常勤講師を務めますので、「出会い」への参加は10月以降になるかと思えます。それでは、くれぐれもお元気で、再会できる日を楽しみにいたしております。

「桃栗3年、柿8年、サロン・あべのは200号」は今回で終わりです。たくさんのご寄稿ありがとうございます。

# 植物あれこれ

51

ない。紀の国線の車窓から眺める春の田園風景も何か足りない。

この思いを晴らしてくれた詩に出会った。

朝の詩 — 麦 —

千葉県白浜町 保田洋子 (58)

麦を 食べなくなってから

踏まれながら 逞しく育つ教えが

教育の現場から消えた

麦を 作らなくなってから

黙々と頑固に自分の道を 見せつける父親が

家庭から消えた

踏みつけられたり 暗い冷たい土の中で

忍耐させられたり 嫌なことばかりだが

麦の犠牲があったから 麦の精神が生きている



3月中旬、大好きな土筆採りに、田舎のあぜ道を歩きながら、思わず口ずさんでいたのは「つくしだれの子すぎなの子、どての土そつと上げて、つくしの坊やがのぞいたら、そとはそよそよ春のかぜ」。たしか、私が小学校2年生の時の国語の教科書の最初にあった文章だったと思ひながら、辺りを見回すと、60年前とどこかが違う田園風景なのです。確かに何かが違うのですが、それが何か、にわかには分かりません。あちこちに林立するビニールハウスはもちろん昔はなかった。しかしそんなものではない。何かが足り

私が漠然と感じていたのは、春には必ずあった緑の色、麦の色だった。

春の田園には、冬に鍛えられた麦苗が勢いよく伸びていたのです。

## 今、「じじばば」真つ盛り

桜の季節となりましたが、お変わりございませんか。

「サロン・あべの」紙201号を拝受し、私の便りを載せていただき恐縮しております。

「書の魅力」。中西利香様のお話伺いました。エネルギーシユで好きな書道に励んでおられるご様子、素敵です。ますます頑張つて漢字・かなと続けてくださいませ。

「植物あれこれ」の「じじばば」のお話、当地でも友人のご主人が丹精こめて春蘭を育てておられ、やはり「じじばば」といつておられました。今、いろいろな種類の春蘭を見せてもらっています。そして、4月の出会い「切手の魅力」使用済み切手の行方、このお話、興味津々です。

サロン紙を楽しみにしております。よろしく願います。お元気で…。

東 百合子

# 美智子のこんな話

岸田美智子

## 支援費制度について

いよいよこの4月から障害者の支援費制度がスタートします。これまでいろんな福祉制度を使ってきた障害者のみなさんの手元には、受給者証と呼ばれるものが送られてきていることでしょう。これを持って自分の好きなヘルパー派遣事業などに契約出来たでしょうか。中には、4月になっても受給者証が間に合わず、仮決定通知書で、事業所と契約しなければならぬ方もおられたことでしょうか。その受給者証に書いてあったサービスタイム数や内容については納得出来るものだったでしょうか。もし、この内容について納得出来ない場合は、時給量変更申請も出来るはずですが、もし何か困ったことや相談したいことがあれば、どうぞ

旬ということなのでトラブルが続出することが現実だと思われます。

利用者である障害者の私たちには、支援費制度において自由な選択権が保証されている反面、選択した責任も自分で取つていかなければならないのですから、何より自分自身が納得出来るサービスを選び、よりよい生活をしていきたいものです。

今後、支援費制度の問題や課題については具体的に障害者の生活現場に多大な影響を及ぼす恐れが十分ありますのでその場合は、黙って我慢するのではなく、どんどん身近な人や場所に伝えていくべきだと思います。

支援費制度については、今までは大阪市内から措置された施設障害者には、1カ月51時間だけ外出介護として全

ん区役所の担当窓口や地域の自立生活センターなどに相談してください。

大阪市でも支援費の内容がはつきり決まったのは、三月下

身性障害者介護人派遣事業を利用出来ていました。これは今回の支援費制度には入らずに大阪市独自の制度として残ることになりました。

今後は、全身性障害者（施設入所者）がガイドヘルパー派遣事業と呼ばれ、大阪市からの委託事業としてNPOライフ・ネットワーク、ヘルプセンター・ホップとして受けていくことになりました。このことの間い合わせは左記までお願いします。

### 〔連絡先〕

特定非営利活動法人

ライフ・ネットワーク

ヘルプセンター・ホップ

住所 〓〒558-0002

大阪市住吉区長居西1-9-12

(キミハウス1F)

TEL&FAX 〓06-6609-3210

(担当 〓堀川・宮本)

## サロンの一筆箋

一冊 一〇〇枚綴 一五〇円

## 平成14年&lt;サロン・あべの&gt;の活動と毎月の出会い

## 平成14年度活動テーマ \*&lt;サロン・あべの&gt;を支えてくれた人たち\*

	会 場	毎 月 の 出 会 い	パ ネ ラ ー
平成14年 4月20日・土	育徳コミュニティ センター2階研修室	あの頃のサロン	原田博子氏 (旧姓=前田博子)
5月18日・土	育徳コミュニティ センター2階研修室	障害者の雇用と就労を考える	茅原聖治氏(龍谷大学経 済学部非常勤講師・ほか)
6月15日・土	育徳コミュニティ センター2階研修室	声で読書のお手伝い	井上礼子氏(音訳ボランテ ィアグループ「糸でんわ」代表)
7月21日・土	ビッグ・アイ	国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」施設見学	
8月4日・日	市立工芸高校校庭	第29回あべのカーニバル「さろん亭」開店	
9月21日・土	育徳コミュニティ センター2階研修室	ハーモニカとマンドリン&ギターの調べに のせて・・・	宇根山弘義氏と佐藤隆 雄氏・里美さん夫妻
10月19日・土	育徳コミュニティ センター2階研修室	(障害者の)スポーツに親しもう、特に重 度障害者のスポーツを中心として	奥田邦晴氏(龍谷大学医療 技術短期大学理学療法士助教)
11月16日・土	育徳コミュニティ センター2階研修室	生命(いのち)あふれる樹々の話	松村順子氏(アベノリサ イクル委員会主宰)
12月7日・土	天王寺都ホテル「松崎」	思い出作りの昼食会	
平成15年 1月18日・土	育徳コミュニティ センター2階研修室	「ハリー・ポッターと賢者の石」 DVD映画鑑賞会	
2月15日・土	育徳コミュニティ センター2階研修室	「書」の魅力 ～サロン紙の表題を書いて～	中西利香氏
3月15日・土	育徳コミュニティ センター2階研修室	あの日からの車いす ～定藤丈弘を支え続けた思い～	定藤邦子氏

## ●その他の活動

- サロンスペシャル in 塩 楽荘 (H14年9月22～23日 塩田温泉)
- 「ふれあいトーク」—磯村市長との交流会—に参加 (H14年12月10日 阿倍野図書館にて)
- 第3回「エコ緑日」で、サロングッズ販売 (H15年3月16日 阿倍野青年センターにて)
- <サロン・あべの>紙 毎月第3土曜日発行
- <サロン・あべの>紙 毎月音訳テープ作成(音訳ボランティア・グループ「糸でんわ」)16名へ送付
- さろん文庫開設…毎週金曜日午後1-4時(阿倍野区在宅サービスセンター・ビューロー室)
- さろん文庫本、音訳テープ作成…音訳ボランティア・グループ「糸でんわ」
- 広報活動…アベノ・タウン紙、ボランティア情報誌「コンボ」、他区サロン紙
- 海外文通…アメリカ・Patti Trucky、イギリス・Margaret Bowler、韓国・馬泰植、  
ドイツ・Brigitte Ehrenberg
- サロングッズ制作と販売…<サロン・あべの>10周年記念誌「はあとが、はろー!」、一筆箋、  
絵はがき「花だより」「新・わがまち阿倍野」、阿倍野いろはがるたなど
- 本紙のホームページ開設 書庫…<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>

- \* 阿倍野区広報「広報あべの」紙 (H15年2月15日付)の「障害者をささえるまちづくり」欄に  
<サロン・あべの>の活動が紹介される



場 所：西区ボランティア・ビューロー室  
大阪市西区新町4-5-14 6階(西区役所隣) 地下鉄=西長堀駅 4-A号 出口からすぐ 市バス=地下鉄西長堀駅から徒歩  
内 容：大型絵本を楽しもう！  
会 費：なし  
問い合わせ先：関口 ☎ 090-4281-5641

■「サロン淀川」5月の出会い

日 時：5月18日(日) 午後1時30分～4時  
場 所：淀川区民センター「やすらぎ」  
大阪市淀川区三国本町2-14-3  
内 容：応急手当を身につけましょう  
～いつでも、どこでも、正しい応急手当が出来るように～  
パネラー：窪田新一氏  
(応急手当普及員 大阪市消防局長認定)  
会 費：なし  
問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビューロー) ☎ 06-6394-2900  
E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にしよど」5月の出会い

日 時：5月24日(土) 午後1時30分～3時30分  
場 所：西淀川区在宅サービスセンター  
「ふくふく」 大阪市西淀川区千舟2-7-7  
パネラー：赤尾広明氏  
内 容：未定  
会 費：なし  
問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター  
☎ 06-6478-2941  
中本 ☎ 090-4497-0635

■「サロン・ひらの」5月の出会い

日 時：5月24日(土) 午後1時～4時  
場 所：にこにこセンター  
大阪市平野区平野東2-1-30  
内 容：映画鑑賞=ハリリー・ポッターと賢者の石  
会 費：未定  
問い合わせ先：高橋 ☎ 090-4497-0635  
足立 ☎ 070-5931-5299

■「ウイズ東淀川」5月の出会い

日 時：5月11日(日) 午後1時30分～4時  
場 所：東淀川区民会館4階会議室  
東淀川区東淡路1丁目4-53  
☎ 06-6379-0700  
内 容：日本におけるレスキュー犬の活躍とその育成について  
パネラー：石井勝治氏(日本レスキュー犬協会会員)  
会 費：なし  
問い合わせ先：鈴木昭二  
☎ 06-6340-3082  
FAX 06-6340-3012

■「サロン・にし」5月の出会い

日 時：5月10日(土) 午後1時30分～4時

■「サロンいたみ」5月はお休みです。

1度参加したいです

こんにちは。風が柔らかく気持ちの良い季節となりました。窓を開けていると春の香りを運んでくれます。何か気分が浮き立つような、思わず暖かい日差しをあびたくなって外出したくなるような、心の安らぐ季節です。今日は、布団を干して、ストーブをしまっ、部屋の片づけをして、久しぶりに「さわやか」な気分になりました。ご連絡ありがとうございます。来月も楽しそうなテーマですネ。ホントに1度参加できたらと思っています。

サロンつるみ 池田美人

お知らせ

〈サロン・あべの〉5月の出会い

内 容：「座って出来る太極拳」と

中国茶のひととき

お客さま：

・太極拳：山田栄子さん

(日本武術太極拳協会・公認指導員)

・中国茶：呂<sup>ロウユウエイ</sup>育維<sup>ウエイ</sup>さん

日 時：5月17日(土) 午後1時〜4時

場 所：育徳コミュニティセンター2階

研修室(スロープ・車いすトイレ有)

大阪市阿倍野区阪南町5-15-28

電話 06-6621-1901

最寄り駅

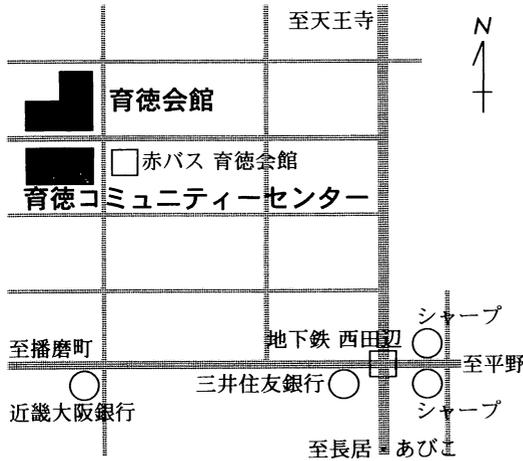
地下鉄御堂筋線「西田辺」

赤バス「育徳会館」下車すぐ

会 費：なし

問い合わせ先：

電話 06-6691-1028 (富田慶子)



ありがとうございました。

カンパ・おにぎり・茶・茶菓子・マスコット民族人形・封筒の寄贈、サロングッズのお買い求めなど、ありがとうございました。(敬称略・順不同)

稲川絢子、加賀谷正、定藤邦子、田中美智子、西川和子、平岡太、H・H(西成区)、その他の方々。

寄りみち



育徳コミュニティセンター。何年か前、定藤先生が話をされたこの同じ席で今日は奥さんが話をされている。先生の教え子でもないし、特別なお知り合いでもない。〈サロン・あべの〉の出会いで先生の話聞いたというだけなのですが、今日の奥さんの「定藤丈弘を支え続けた思い」に、「自己決定と自己管理の大切さ」をいわれた先生の話オーバーラップさせて聞かせていただきました。(石)

〈サロン・あべの〉VOL.202 発行：平成15(2003)年4月19日 定価¥100  
 編集人：〈サロン・あべの〉運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子  
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方〈サロン・あべの〉  
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941  
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212  
 本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>